

郷土大館の発展を目指して

在京経済人懇談会

三月四日、「在京経済人懇談会」が東京で開かれました。これは、大館市企業誘致促進協議会（会長・畠山市長）が、首都圏で活躍している大館及び周辺町村出身の経済人の方々に集まっていただけで開いたものです。現在地元を離れている方々から見た「大館」について伺いました。懇談会では、熱心な意見交換が行われ、今後の企業誘致・地域活性化へ向けての指標となる貴重な意見や方策が数多く出されました。



▲熱心に意見交換が行われた懇談会

懇談会には、在京経済人四十人、市協議会から十七人が出席。畠山市長と緑川商工会議所会頭が、大館の現況報告などを交えながらあいさつしたあと、在京経済人を代表して、マツダ（株）相談役の岩澤正二さんから「大館は首都圏から遠いし、空港も無いなどいろいろなハンデキャップを背負っているのので、企業を誘致するのは大変なことですが、みんなで知恵を出し合い、良い企業を大館へ誘致しましょう。」と出席者への協力を呼びかけられました。

続いて行われた意見交換では、在京経済人の方々から、これまでの経験などに基づいた貴重なアドバイスがありました。その中から、主な内容をお送りします。

企業誘致・

地域活性化へ向けて

もっとPRを

●中央には、「大館」を知らない人が多い。高速道路のインター

チェンジから二十分の所にあるとか、有能な労働者がいる、土地が安いなど、大館を売り込むPRを大いにすべきである。

●大館（地場）をアピールするものを開発する必要がある。例えば、木材を使って「こんなものができるんだ」というような何かを技術的に開発すれば、企業誘致の際に役立つと思う。

●「ファッションのまち」を目指してファッションショーを開いているのであれば、一流デザイナーのファッションショーを開催してはどうか。そうすれば、おのずからマスコミが大館をPRしてくれる。

情報収集が大切

●東京で、企業誘致に関する最先端の情報を収集し、それを生かすことが大切である。企業がやろうとしていることは何なのか、誘致のためにはどのような条件が必要なのか等々を知り、大館がそれらを満たす受け皿をつくれれば、企業は進出する。

大館に大学を

●企業を受け入れるための環境を整備する必要がある。知識技術者の供給体制を確立するため、大学を誘致する必要がある。

●大館の新しいイメージづくりのために、大学を誘致してはどうか。大学があれば、大館の名

▲在京経済人を代表してあいさつをする岩澤さん。



前を全国的に知ってもらう手段となるし、若者が集まってくる。大館を若者のまち、文教都市に。

二次産業以外の誘致も

●今、全国の自治体が誘致を進めているのは、二次産業だが、他の産業、特に、温泉を利用したりハビリ病院やレジャー産業などの三次産業に目を向けることも必要ではないだろうか。

●今後、長寿化は一層進むと考える。そこで、別荘的な考えではなく、将来定住してもらうための「家」の誘致も進めてはどうか。幸い大館は、自然環境に恵まれており、温泉も利用できる。企業だけではなく、「家」家庭の誘致も考えてはどうか。

●最近、都会の老人ホームが地方へ進出している。大館は寒さ